

周りの受験生はライバルだけと同志

取得した資格：技術士（総合技術監理部門）
資格取得年度：令和3年度

やま うら こう た*
山 浦 浩 太*

総合技術監理への興味と期待

自分の過去の働きぶりを自己評価してみると、決して生産性が良い方ではなく、効率の悪さを仕事量と根性で乗り切るタイプであったと自認しています。

しかし、年齢と共に体力は落ち、記憶力も衰えを感じ始めた今日この頃、昨今の働き方改革の流れも相まり、仕事を上手くマネジメントして、質の高い働き方ができるようになりたいと考えるようになりました。

そんな時に気になったのが、技術士の総合技術監理部門でした。総合技術監理とは、業務全体を俯瞰し、5つの管理（経済性・人的資源・情報・安全・社会環境）に関する総合的な分析・評価に基づいて、最適な企画・計画・実施・対応等を行う監理業務と位置づけられており、既存の20部門に追加される形で、平成12年に新設された部門（分野）です。

上記だけでは内容がイメージしづらく「総合技術監理って何をやるのだろう」という興味と、「何か業務に活かそうだな」という期待が受験の動機でした。

1回で受ければ最高ですが…

まず基本的な情報として、技術士総合技術監理部門を取得するには、第1次試験を合格（またはJABEE

修了）し、その後に技術士（建設部門などのいわゆる20部門）を取得した後に受験するのが一般的です。

試験は筆記試験（択一と記述）と口頭試験からなり、合格率は概ね10%台で推移しており、私の場合は3回目の受験で運良く合格に辿り着くことができました。

平日の試験勉強は主に通勤電車の中で、択一問題を中心に行いました。やる場所と時間を決めて、集中的にやったことが良かったと思います。

他方、休日は家で記述問題に時間を割きましたが、日中はなるべく余暇にあて、家族が寝静まった夜に取り組むようにしました。もちろん試験が近くなれば休日昼間の勉強も必須だと思いますが、余暇を減らし過ぎると何のために勉強しているのかと疑問が強くなり、勉強意欲が低下し、身が入らなくなっていくます。

毎年受験できるので、その年に頑張れる範囲で取り組み、ダメなら翌年に向けて徐々にレベルアップできれば良い、位の気持ちで取り組みました。もちろん、1回で受ければ最高ですが、難しい試験なので、長い目でみることで結果的に3年の長期戦を乗り切れたのではないかと思います。

*長野県 安曇野建設事務所 整備課 担当係長

周りの受験生はライバルだけど同志

筆記試験は12都道府県のみ（長野県はなし）、その後の口頭試験は東京会場のみとなり、地方からの受験者としては、移動の労力や金銭面など、負担のかかる場面となります。

また、試験会場は人が多くて緊張しますが、周りを見渡してみると、私と同じ年代の受験生を何人もみかけました。試験を通してずっと気がかりだったのは、自分はまだ総合技術監理部門を取得するには早過ぎるのではないか、という不安ですが、試験直前に同世代の受験生を見たことで大変な励みになりました。

実際、建設コンサルタントの知り合いに話を聞いてみると30代で取得する人も少なくないようで、自分が挑んできたことが時期尚早ではないと、勇気をもらいました。周りの受験生は合格を争うライバルではありますが、同じ目標を目指す同志でもあると気づかされました。

また、職場で既に取得されている方や、同じ年度に受ける方と情報交換をするなど、個人で受ける試験ではありますが、チーム戦で臨んだ方が強いのは必然ですので、仲間探しをおススメします。

長野県における資格取得支援制度等

長野県では近年、県職員に対する資格取得支援金制度が始まり、受験料及び登録料等の最大1/2（上限3万円）が公費で補助されます。対象は事務・技術全般ですが技術士も含まれており、金銭的な援助としては勿論ありがたいですが、頑張りを認めて貰えた気もして、受験意欲に繋がりました。

また、長野県建設技術協会としても、技術資格全般に対する補助制度（1つ目5,000円、2つ目以降は3,000円）があり、額は少ないですが、無いより

は有った方がモチベーションが上がります。

なお、受験に際しては、相応の時間と費用を費やすことから、家族の協力と理解も不可欠だと思います。勉強させていただいたことに対する感謝を常々伝えると共に、試験時のお土産は必須だと思います。

これから受験される皆さまへ

分かったような事を述べさせてもらいましたが、合格後に成績開示を行うと、私の成績は合格ラインである60点ジャストでした（100点満点）。

ギリギリではありますが合格は合格ですので、この資格を取得したことには自信を持ちたいと思います。

一方で、「言うは易し行は難し」の言葉とおり、試験で記したこと、言葉で発したことを実際に行うのは、簡単ではないと思います。

試験勉強中は、当然ながら試験に合格することはばかり考えがちですが、その後の実務において総合技術監理（英語表記だとEngineering Management）を行うことが本来の目的だと思い起こし、日々の実務に取り組んでいるところです。

総合技術監理部門は、普段の業務では触れない分野も多く学ぶ必要があり、試験勉強の負担感がありますが、その分、実務において新たな視点が多くなりますので、興味をお持ちの方は参考書やウェブサイト等をご覧になることをお勧めします。乱文ながら、私の体験記がこれから受験をされる方にとって、少しでも参考になれば幸いです。

<参考文献>

- ・総合技術監理部門択一式問題の完全攻略、オーム社
- ・総合技術監理部門 傾向と対策、鹿島出版会

【著者紹介】 山浦 浩太（やまうら こうた）

1983年生まれ、2008年長野県入庁。初任地：佐久建設事務所の後、飯田建設事務所でリニア関連道路整備、県庁道路建設課で信州みちビジョン策定、長野建設事務所で犀川治水対策、県庁道路管理課にて市町村道事業等に従事後現職。2012年度に技術士（建設部門：道路）取得。